

台東区

SDGs

教育旅行
ワークシート



台東区観光課





ワークシートの上手な使い方

このワークシートの目的は、SDGsが私たち全員に与えられた課題であると理解することです。SDGsは決して遠い未来の話ではなく、私たちが今できることを問われています。台東区に実際に足を運ぶことで、体験して獲得した情報、気付きがあるでしょう。旅先で得た情報や気付きを整理するときは、「誰かに

伝える」ことを意識すると、自分の中でしっかりと理解が進みます。さらにわかりやすく人に伝える力も身につくはずですよ。

このワークシートと一緒に旅することで、あなたの生活とSDGsのつながりを考えてみましょう。

旅マエ

旅ナカ

旅アト

STEP 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

ゴール



予習

(情報を集める)

- SDGsを理解する
- 台東区を知る
- 問題意識を持つ



取材

(情報を取ってくる)

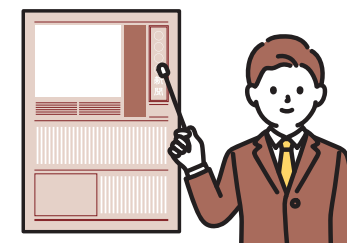
- 相手の話を聞く
- 気になったことを質問する
- メモや写真で記録する



記事にする

(理解を深める)

- 取材した情報を整理する
- 必要な情報を選ぶ
- 並べ方を工夫する



発表する



旅マエ

旅ナカ

旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

予習

事前学習・課題の設定

まず、p.04～p.07を読んでから予習を進めよう。

- 1 SDGs についてしっかりと学ぼう p.08
●私たちが直面する課題であることを再確認しよう
- 2 SDGs を自分ごとにしよう p.09
●あなたが今日から始められることはあるか考えよう
- 3 台東区を知ろう p.10, コンテンツブック参照
●台東区の歴史やどんな場所かを もっと知ろう
- 4 台東区の取り組みを知ろう p.11
●「江戸からつながるサステナブル」の意味を知ろう
- 5 相手を知ろう p.12, コンテンツブック参照
●取り組みを通して相手に興味を持とう

→調べた情報を整理しよう。
取材テーマを頭に思い描こう。

取材

情報収集・コミュニケーション・記録

- 6 どこへ行ったのか p.13
●写真やメモで情報を記録しよう
- 7 どんな取り組みか p.14
●取材で情報を引き出そう
- 8 取り組みのゴールとは p.15
●目標はどこにあるか調べよう

→現地でしか得られない情報は記録に残そう。
その場で自分が感じたこともメモしよう。

記事作成・発表

- 9 記事の作り方 p.16
●取材先で集めた情報を記事にして伝えよう
- 10 あなたが伝えたいと思ったことは何か p.17
●見出しを考えよう
- 11 どんな取材だったか思い出してまとめよう p.18
●記事に使う情報をまとめよう
- 12 自分だけでなくみんなに考えてもらおう p.19
●今後の課題を提起しよう

→どうしたらみんなに興味を持ってもらえるか
考えよう。

3段階にわけて学習します

旅行と学習をタイミングごとに3つのフェーズにわけて、順番にクリアしましょう。記者になったつもりで、予習をして、取材し、記事を作るためには何をしたらいいのか考えます。本書のミッションを順番にクリアしていくことで、楽しく学べるように工夫してあります。

POINT

最後に作った記事を発表しましょう。自分が学んだこと、取材したことを、自分の問題として吸収し、さらにどうしたら人に伝わるかを考えましょう。グループで課題に取り組む際は、しっかりと話し合いながら記事作りを進めることも大事です。台東区に行く前に、p.16「記事の作り方」を読んでおくと、取材時に意識すべきことが明確になるかもしれません。





持続可能でよりよい社会の実現を目指すSDGs

現在、私たちが住む地球は、貧困、資源の枯渇、環境破壊、不平等など、さまざまな問題に直面しています。こうした地球規模の問題を解決するために、「誰一人取り残さない」という目標のもとで、持続可能でよりよい社会の実現を目指すのがSDGsです。

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」という英語の頭文字をとったもので、地球に住む私たちが抱える問題に対して17の目標が定められ、国際連合（国連）加盟193カ国が2030年までの達成を目指しています。

SDGsの「S」Sustainable（サステナブル）とは「sustain（持続する）」と「able（～できる）」という意味で、「持続可能な」と訳すことができます。「今だけでなく、この先もずっと続けることができる開発」を目指すということです。たとえば自分たちが食べたいからという理由で動物や魚の乱獲を続けたら、いずれ地球上からいなくなってしまうかもしれません。限りある石油をエネルギーとして消費し続けたら、やがて枯渇してしまうでしょう。目の前にある利益や欲望だけを追い求めていると、この地球は限界を迎えてしまいます。私たちの次の世代、そしてまたその次の世代とバトンを渡し続けていくためには、SDGsの達成を目指さなくてははいけません。

「持続可能な開発」を続けるには、「環境保護」「社会的包摂※」「経済開発」の3つの主要素の調和が求められます。経済発展だけに取り組みのではなく、環境や社会が抱える問題にバランスよく取り組み、地球上の人が誰ひとり取り残されることなく、これからも幸せに暮らし続けていく社会を目指す必要があります。

※誰一人排除することなく社会全体で包み込むこと

SDGsには17の目標があります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



なぜ取り組むの？

私たち一人ひとりに与えられた課題

なぜ、私たちがSDGsに真剣に取り組む必要があるのでしょうか。

環境問題を例にとると、私たちが暮らすことで排出される温室効果ガスの量は今や史上最高レベルにあります。増大する温室効果ガスにより気候変動が進んだ結果、世界の平均気温は産業革命が起こった19世紀半ばから1度上昇しています。

気温が上昇すると、海水は膨張し氷河が溶けます。それに伴い海水面は上昇します。太平洋にある平均海拔が1.5mしかないツバルという国では、国土が海水に侵され、2002年7月からは国外避難も始まっています。ツバルは温室効果ガスの排出量が先進国に比べて少ないにもかかわらず、工業化した先進国が排出した温室効

果ガスによって引き起こされた地球温暖化の影響を最も深刻に受けている国です。

先進国が必要とする材木を輸出するために、発展途上国では森林伐採が盛んに行われています。私たちが美しい木材で豊かな生活を手に入れたとしても、その結果環境が破壊されたら、同じ地球の住人として等しくCO2増加による温暖化や気候変動などの被害を受けます。

このように、人間が目先の利益だけを求めて環境破壊を繰り返し、「自分たちさえよければいい」という考えで生活を続けたら、いずれこの地球は破綻します。

SDGsは私たち人類と地球を守るために達成しなければいけない目標であり、私たち一人ひとりに与えられた課題なのです。

(参考) 全国地球温暖化防止活動推進センターHPより

SDGsには17の目標がありますが、さらに深く理解するために「5つのP」でわけてみましょう。

1 PEOPLE (人間)



すべての人の人権が尊重され、尊厳をもち、平等に、潜在能力を発揮できるようにする。貧困と飢餓を終わらせ、ジェンダー平等を達成し、すべての人に教育、水と衛生、健康的な生活を保障する。

2 PROSPERITY (豊かさ)




すべての人が豊かで充実した生活を送れるようにし、自然と調和する経済、社会、技術の進展を確保する。

3 PLANET (地球)




責任ある消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応などを通して、地球を破壊から守る。

4 PEACE (平和)



平和、公正で、恐怖と暴力のない、インクルーシブ(すべての人が受け入れられ参加できる)な世界をめざす。

5 PARTNERSHIP (パートナーシップ)



政府、民間セクター、市民社会、国連機関を含む多様な関係者が参加する、グローバルなパートナーシップにより実現をめざす。

POINT

SDGsは大きな目標である〈17のゴール〉、さらに具体的な目標である〈169のターゲット〉によって構成されています。17のゴールの中で、自分たちに深く関係するもの、すぐに取り組めるものがないか考えてみましょう。

(参考) unicef (国連児童基金) HPより



SDGsと無関係な人は地球上にいない

私たちが文明と教育を享受する一方で、世界にはその日の食事に困っている人もいます。国連が定めた世界共通の目標であるSDGsは「誰一人取り残されない」世界の実現を目指しています。集団で率先して取り組むべきこともあります、

個人ができる小さな取り組みもあります。私たち地球の住人の誰かが身勝手な振る舞いをしたら、必ず誰かに悪い影響を与えます。私たちが一歩前に進めば世界はきっと良くなります。SDGsの理念と無関係な人はこの地球上にいないのです。

あなたには何ができる。たとえば…

節電・節水を心掛ける



電気や水を作り、使われるまでの間に、たくさんのエネルギーが消費されます。また、多くの温室効果ガスが排出され、地球温暖化の原因となっています。

マイバックやマイボトルを活用する



プラスチックごみが海に流れると、海が汚れるだけでなく、海の生き物やそれを食べる私たち人間や動物などにもさまざまな悪影響を与えます。

食品ロスを減らす



食品ロスの量が、2018年には日本だけで年間600万トン、一人あたり年間約47kgとなり、毎日お茶碗一杯分のご飯を捨てているのと同じ量になります。

再利用・リサイクルを積極的に行う



リサイクルをすれば限りある資源を失うことなく暮らし続けることができます。ゴミが減ると、焼却処分による環境への悪影響を軽減し温室効果ガスが減ります。

公共交通機関や自転車を利用する



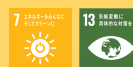
電車やバスなどの公共交通機関を利用することは、それぞれが自家用車を使って移動するより、温室効果ガスの排出量が少なくなります。自転車は化学燃料を使わずに移動できる、とてもクリーンな乗り物です。

フェアトレード商品を購入する



フェアトレードとは、「公平・公正な貿易」という意味です。安すぎる商品は人件費や原料が安価な発展途上国で作られていて、適切な対価が生産者に払われていないケースがあります。

持続可能なエネルギーを使う



石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料は限りある資源です。温室効果ガスを排出しない（もしくは増加させない）という特徴を持つ太陽光・風力・バイオマスなどの再生可能エネルギーが注目を集めています。

POINT

SDGsには17の目標がありますが、すべての目標にすぐに取り組む必要はありません。まずは「できること」「できそうなこと」を意識し、取り組んでみましょう。



台東区のSDGs

台東区は江戸からつながるサステナブルを継承するまちです

18世紀の江戸は100万人が暮らした「当時世界で最も大きな都市」でしたが、全ての産業が再利用・再資源化を中心に成り立つ廃棄物ゼロの社会であり、人と人が助け合って生活していました。その暮らしぶりには現在のSDGsと通じるものが多く見られます。文化や産業、暮らしの中に今なお“江戸”が色濃く残る台東区は、さながら“江戸からつながるサステナブル”を継承するまちと言えるでしょう。

1 あらゆる世代が生涯にわたって成長し輝くまちの実現

子どもから高齢者まで、人は、いくつになっても、豊かな人間性を養い、心身ともに健やかに成長することができます。家庭や学校、地域と一体となって、区民が成長していくための多様な機会をつくれます。



2 いつまでも健やかに自分らしく暮らせるまちの実現

医療や介護が必要となった場合でも、区民が安心して生活を送ることができるよう、保健、医療、福祉サービスをお互いに連携させて、必要に応じた適切なサービスを提供していきます。



3 活力にあふれ多彩な魅力が輝くまちの実現

世界中から多様な人々が訪れる台東区では、長い歴史と伝統をもつ文化や産業が、新たな感性と出会うことで、新しい魅力が生まれ、まちの輝きが増えています。そして、その輝きがまちの繁栄を確かなものにします。文化と産業、観光の力を連動させて、その力を最大限に高め、輝かしい未来の創造につなげます。



4 誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまちの実現

住む人、働く人、訪れる人にとって魅力のある持続可能なまちにするため、長い歴史の中で育んできた地域の資源を活かして、個性豊かな街並みやまちの活力を生み出すとともに、誰もが安全安心で快適に過ごせる環境を整えます。



多様な主体と連携した区政運営の推進

平和で、多様な人々が活躍できる地域社会を築き上げ、区民や地域で活動する団体、国内外の都市や地域など多様な主体と協働・連携し、持続可能な区の運営に取り組みます。





旅ナカ

旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

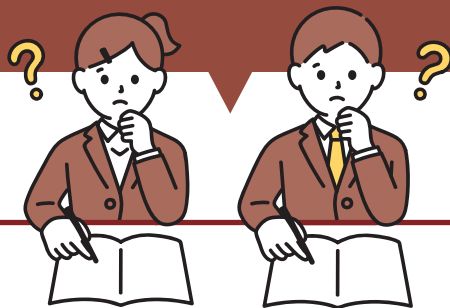
11

12

STEP

1

SDGsについて
しっかりと
学ぼう



- サステナブルって何？
- SDGsの目標はいくつある？
- なぜ取り組むの？
- 5つのPって何？

記入欄





旅ナカ

旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

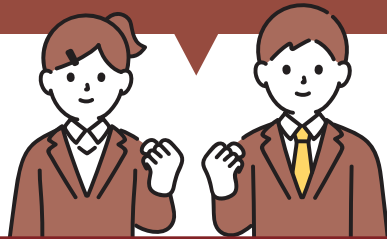
11

12

STEP

2

SDGsを 自分ごとにしよう



- SDGs は誰の問題？

- 家にいてもできることは？

- 家の外でできることは？

- 学校でできることは？

記入欄





旅ナカ

旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

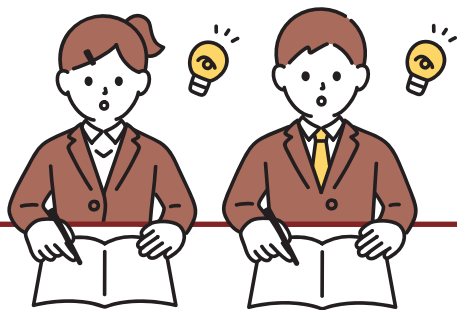
11

12

STEP

3

台東区を知ろう



- 台東区ってどこにある？

- 駅はいくつある？

- どんな歴史がある？

- どんな人が暮らしている？

記入欄



旅ナカ

旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

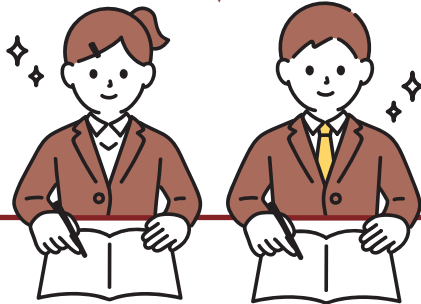
11

12

STEP

4

台東区の 取り組みを知ろう



- 「江戸からつながるサステナブル」
とは？

- 台東区の抱える問題は？

- 5つの柱とは？

- 3R+1とは？

記入欄



旅ナカ

旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

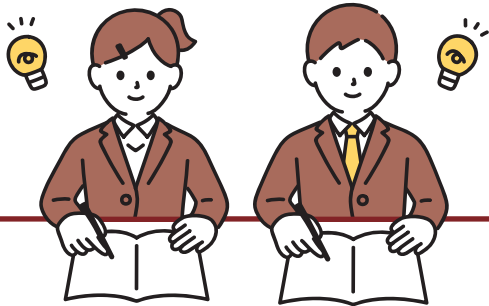
11

12

STEP

5

相手を知ろう



- どんな取り組みを行っているのか？

- 何を体験・見学できるのか？

記入欄

STEP

6

取材ノート1

どこへ行ったのか



- なぜそこへ行こうと思ったの？
- 台東区を歩いて感じたことは？
- 訪れた場所の名前は？
- 周囲の様子はどんな感じ？
- 担当者の名前は？

記入欄

旅マエ



旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

STEP

7

取材ノート2

どんな取り組みか



- どんな取り組みを行っている?

- いつから行っている?

- 取り組みを始めたきっかけは?

- どんな苦労がある?

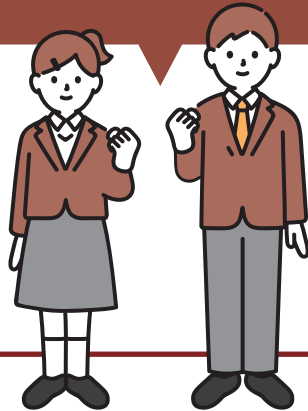
記入欄

STEP

8

取材ノート3

取り組みの ゴールとは



- 目標はどこにあるのか？

- 担当者が描く未来とは？

- 次世代に何を伝えたいか？

- 何を残したいか？

- 実際に話を聞いて感じたこと

記入欄

旅マエ

旅ナカ

旅アト

STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

STEP

9

記事の作り方

取材先で集めた情報を
記事にして伝えよう！

伝えたいことから書く「逆三角形」

一番伝えたいこと

説明、経緯
など

感想
など

高

重要度

低



あてもなく書きはじめても、
わかりやすい記事にはなりません。



伝えたいことをはっきりとしぼって、
それを深く掘り下げましょう。



〈記事づくりの基本とは〉

- ・取材メモを見返し、足りないところを書き足そう。
- ・現場であなたが一番心を動かされたことを書こう。
- ・現場で感じた「なぜ」を集めて、書き出そう。
- ・何を伝えたいのかまとめよう。

さあ書こう。

5W1Hが記事の基本。

When

いつ

Where

どこで

Who

だれが

What

何を

Why

なぜ

How

どのように

一番伝えたいことは何か考えてみよう。



STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

STEP

10

まとめ1

あなたが伝えたいと 思ったことは何か



長い見出しと短い見出し。

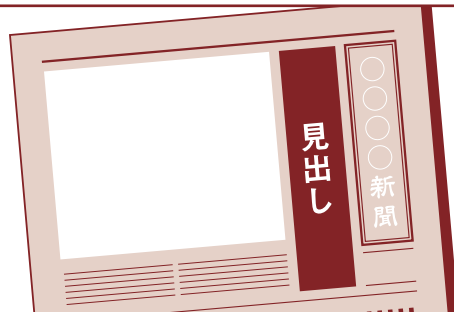
どちらが伝わるか、印象的か比べてみましょう。



見出しを考えたら、友達に意見を聞いてみましょう。

チャレンジ1

見出しを考えよう



〈見出しとは〉

多くの人々の目にとまる記事は、見出しが優れています。本や映画で言えばタイトルのようなもの。あなたがどんなふうにかいたら、みんなが興味を持ってくれると思いますか。10～20文字程度の見出し案をいくつも出してみましょう。

見出し案

旅マエ

旅ナカ

旅アト



STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

STEP

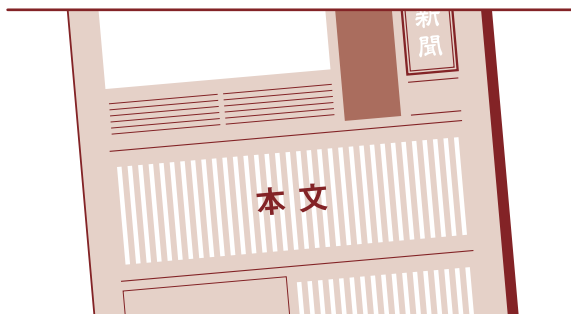
II

まとめ2

どんな取材だったか
思い出してまとめよう

チャレンジ2

記事に使う情報をまとめよう



〈本文とは〉

取材先で集めた情報は、単なる情報でしかありません。しかし、あなたの集めた情報に丁寧に肉付けすることで、情報に血が通い、誰かの心に残る記事になります。読んだ人の想像力を膨らませる文章を心がけましょう。



記事を面白くするのは細かい情報の積み重ねです。
どんどん書き出して、大事なものから印をつけてください。



実際の新聞を読んで写真やイラストがどのように使われているか、
そしてどんな情報が書かれているか参考にしましょう。

取材先で集めた情報・感じたこと



STEP

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

STEP

12

まとめ3

自分だけでなく みんなに 考えてもらおう

チャレンジ3

今後の課題を提起しよう



〈課題提起とは〉

ただ単に事実を情報として伝えることも大事ですが、書き手であるあなたの感じた問題意識を記事に入れ込むことで、読んだ人に考えさせる記事になります。SDGsという課題を与えられた私たちが未来を考えるきっかけをあなたが作ってみましょう。



どんな課題があるのか、その課題に対して私たちに何ができるか提案しよう。



上から押し付けるのではなく、書き手と読み手が一緒に何ができるかを考えてみよう。

提起すべき課題

それでは実際に記事を作ってみよう！（次ページ）

写真・イラスト

見出し

新聞の題名

写真・イラストの説明

年 月 日
発行者

本文

編集後記